

回復期リハビリテーション病棟の取り組み

もっともっと回復期病棟を良くしよう ～7つのチーム = 7つの色で輝きを～



Team Shida

回復期リハビリテーション病棟に関する疑問にお答えします

Q1.回復期リハビリテーション病棟での毎日の生活はどんな感じなの？

毎日の生活は、まず患者様の病気の管理が基本となります。そのうえで、通常、数か月間の入院を経て家庭や社会へ復帰することを目的に、日常的な食事や歩行、排泄、入浴などの動作を改善するためのリハビリ・プログラム（総合実施計画）が組まれます。



Q2.回復期リハビリテーション病棟ではなぜチーム医療が行われているの？

患者様にとって、「回復期」は集中的なリハビリテーションによって機能回復が最も期待できる時期であると同時に、心理、社会、経済的問題も多々生じやすい時期です。生命の危機を乗り越え安心したものの、「手足の麻痺は元に戻るだろうか」といった不安や、「戻らなかつたらこれから先どうしたらいいのか」等々、複雑な心身状況にある患者様やご家族に対し良質な入院医療サービスを提供するためには、担当医師だけでなく、大勢の看護・介護スタッフ、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）、ソーシャルワーカー（社会福祉士）、（管理）栄養士、歯科医師・衛生士、義肢装具士、薬剤師など...さまざまな専門技術・知識を持った医療スタッフがチームを組んで、患者様、ご家族と一緒にADL向上、家庭復帰に取り組むことが欠かせません。

Q3.回復期リハビリテーション病棟にはどれぐらいの期間、入院できるの？

入院できる期間は、疾患や傷病名によって日数が決められています。たとえば、脳梗塞や脳出血などは150日以内、高次脳機能障害（脳がダメージを受け、記憶・思考・言語などの機能が低下した状態）や脳卒中の重症例は180日以内、大腿骨頸部骨折、廃用症候群は90日以内、股関節・膝関節などの神経、筋や靭帯の損傷は60日以内となっています。実際には患者様の状態やご希望、また退院先の状況によりそれぞれ異なりますから、入院された病院のスタッフと相談しながら決めていきます。退院についてはソーシャルワーカーをはじめいろいろな職種のスタッフが患者様に寄り添い、ご本人の希望を聞き、自宅に帰ってからの患者様の生活を第一に考えながら最良の退院方法を考えていきます。



回復期リハビリテーション協会 回復期リハビリテーション病棟『ケア10項目』

1. 食事は食堂やデイルームに誘導し、経口摂取への取り組みを推進しよう。
2. 洗面は洗面所で朝夕、口腔ケアは毎食後実施しよう。
3. 排泄はトイレへ誘導し、オムツは極力使用しないようにしよう。
4. 入浴は週2回以上、必ず浴槽に入れるようにしよう。
5. 日中は普段着で過ごし、更衣は朝夕実施しよう。
6. 二次的合併症を予防し、安全対策を徹底し、可能な限り抑制は止めよう。
7. 他職種と情報の共有化を推進しよう。
8. リハ技術を習得し看護ケアに生かそう。
9. ご家族へのケアと介護指導を徹底しよう。
10. 看護計画を頻回に見直しリハ計画に反映しよう。



「回復期リハ病棟ケア10項目宣言」は、たとえ障害があったとしても、患者様ご自身が希望する生活が実現できるように支えていきたいという看護・介護スタッフの声から生まれました。

私たちスタッフ一同、「ケア10項目」宣言に則り、患者様へのサービスの質の向上に努めています。

“7つのチーム(班)”活動の取り組み



もっともっと回復期病棟が良くなるように、各職種の専門性を活かし取り組んでいきます。

回復期リハビリテーション病棟の取り組み

もっともっと回復期病棟を良くしよう
～7つのチーム＝7つの色で輝きを～